

西部地区酪農団体連絡協議会

8/24 北広島町運動公園



第十九回グラウンドゴルフ大会 会員・酪農関係者らと

交流を深める！

西部地区組合員団体連絡協議会（西原嘉一会長）は、伊藤尊之副町長（北広島町）を始め、会員・地元酪農関係者ら九十六名が参加して、第十九回グラウンドゴルフ大会と焼肉による交流会を開催した。

開会にあたり西原嘉一会長は、「酪農情勢は大変厳しい状況にありますが、会員の団結、関係団体の支援と協力をお願いします。本日は有意義な交流会を図りましょう。」と挨拶した。

炎天下の中、水分補給を行ないながらも参加者らは揃って楽しくプレーし、シニアの部では易元畜産の易元久雄氏、ジュニアの部では新谷莉治さん（十二歳・新谷弘知組合員のお孫さん）がそれぞれ優勝された。

グラウンドゴルフ大会終了後は西部事業所隣接の空き地に会場を移し、焼肉を食べながらの情報交換を行った。

甲奴郡酪農組合

8/25 三次市甲奴町

ショージ消費者と交流 角牧場で酪農への理解を深める

百二十名が参加

甲奴郡酪農組合（伊達薫組合長）は、西條商事㈱の「ショージ広島県産おいしい牛乳」の消費者らを招き、交流会を開催した。

当日は猛暑にも関わらず、夏休みの思い出づくりにと家族連れ約八十名が、酪農家や山陽乳業㈱のスタッフらが出迎える中、会場のウィングドームに大型バス二台で乗り付け、参加者は総勢百二十名となった。

交流会では、伊達組合長が歓迎の挨拶を述べられ、道田稔弘副組合長が牛乳を片手に「ようこそ甲奴の地へ。私達酪農家は毎日頑張つて美味しい牛乳を搾っていますので、みなさんもしっかり飲んで下さい。今日は楽しんで帰って下さい。」と参加者全員と乾杯した。その後は、十一班に分かれてバーベキューを行い、酪農家のお母さん方は前日から準備に大忙しで、自慢の野菜を持ち寄り、野菜セットやおにぎりでもてなした。食後にはスイカの食べ放題や、乳製品や地元産の野菜詰合せセットが当たるビンゴゲームで楽しんだ。

また、角康晴牧場では、餌やり体験や質疑応答等、酪農への理解を深める活動を行った。

全ての日程を終えた消費者らがバスに乗り込むと、酪農家らは、酪農への理解と「今後も牛乳をしつかり飲んで欲しい」と願いながら、笑顔で見送っておられた。



高野酪農組合

8/26 庄原市高野町

第十五回 高野三・五牛乳産地交流会



生協ひ
ろしま主
催による
高野三・
五牛乳「高野・備北の恵み」産地交流会が開
催され、生協組合員、生産者(向田康浩組合
員、市原富子組合員)、牛乳製造メーカーら
約八十名が参加された。広酪からは、櫻木
茂夫事業推進課課長補佐、河内山洋市乳販
売促進課主任が参加し支援した。

開会にあたり、向田福夫組合長は、「第
十五回目を数えるが、年数からすれば商品
誕生から二十年以上が経過し、歴史がある。
高野町は夏も涼しいので、牛の夏バテも少
なく、良い乳が出る。この乳で出来た牛乳
『産直三・五牛乳高野・備北の恵み』を皆さん、
たくさん飲んで下さい。」と歓迎の挨拶を述
べられた。



飼料畑で子どもたちにトウモロコシを
もって説明する向田康浩組合員

参加者ら
は午前中に
製造元の東
洋乳業(株)の
工場見学を
した後、高
野ファーマ
ーズマー
ケットで牛
乳料理(ミ

ルクそうめん・牛
乳もち)のもてな
しを受けながら
生産者や商品紹
介を受け、手作り
バター等で交流
を深めた。

その後、向田牧場へ会場を移し、飼料畑
を見学しながら、自給飼料等の説明を受け、
参加者からは、「以前は低脂肪牛乳を飲んで
いたが、実際にこういった交流会へ参加す
ると、牛乳の良さが良く分かった。これか
らは高野・備北の恵み牛乳を飲みたい」等の
意見があり、消費者交流が牛乳の消費拡大
につながっていることを実感した。

最後に、実行委員会を代表して、草野委
員から参加者に向けて「自分のところで作
られた餌を食べて生産された乳で作られた
牛乳は、まさに安全・安心だと思えます。
これからも皆さんで高野・備北の恵み牛乳
を買って酪農家を支えましょう」と消費拡
大を約束された。

「産直三・五牛乳高野・備北の恵み」は、産
地指定牛乳として、一九九二年に誕生し、
一九九七年から現在の名称となり、生協P
B(プライベートブランド)として販売され
ている。



高野ファーマーズマーケットにて牛乳料
理で交流を深める参加者ら

つくしんぼ会

7/12 高宮ミルクボーイ

楽しく 思い出に残る活動を!



安芸高田市高宮町の酪農女性部(5名)で構成する「つ
くしんぼ会」(泉里子代表)は結成 20 年を迎えられた。

同会は日々の慌ただしさを忘れ、組合員同士のコ
ミュニケーションを目的に、皆さん明日への糧として
「つくしんぼ会」としての活動を大切にされている。

主な活動は、押し花、小物等の作品販売、ミルクボー
イ事務所前の花壇の環境美化にあたられている。今年
の花壇には「日々草」を植えられたが、これには「楽し
い思い出」、「友情」という花言葉があるそうで、木原
洋子さんは「私達もこの花言葉のように同じ組合員と
して日々友情を育み、楽しく思い出に残る女性部の活
動を目指し、その活動を広げていきたい」と話されて
いた。



夢を形に！酪農家の熱意に期待！ 安芸高田市議会議員と意見交換

安芸高田市議会議員で構成される「安芸高田市産業建設常任委員会」から意見交換会への打診を受け、広島から地元理事の榎野大樹理事、西中晃参事、寺道弘生西部事業所長、河内山洋主任が出席した。

意見交換会のテーマは「コントラクター制度」として、西中参事から広島県の酪農実態を交えたコントラクター構想の話題を提供し、相互に情報交換を行った。

入本議員は、昔の商店街の小売店が何故衰退の路を辿ったかを例にあげて、「今こそ、酪農家の仲間同士で知恵を出し合い、連帯協力体制が築けないものか。例えば、二十頭の酪農家が二戸

あれば、所有牛を一戸に集め四十頭を管理、残る一戸は飼料作りをする等の分担が出来ないか等、近隣で協力し合う体制や共同経営(企業化)が出来ないか。過去には安芸高田市にはタワースイロもあつたが、輸入飼料がコスト安の時代に向かったことで、スイロづくりが無くなった。現在は輸入飼料の高騰が懸念されていることから、景観保全や自給飼料確保対策等で地域への貢献が創造出来ないか」との意見もあがつた。

こういった関連は、酪農家のみではなく、稲作農家との連携が必要となることから、「地域で協力し合い、現場での『やる気』を醸成し、立ち上がらなければ意味が無い」と酪農家への叱咤激励の言葉もあつた。

熊高議員は、第六次産業へ意欲的な考えを示し、「生乳の弾力的取り扱いについて興味がある。小さな企業や法人では関係法令等への対応等、難しい問題もあるが、地域で生産・加工された物を地域で消費し、消費者が生産者に合わせて商品を購入する体制を築いてはどうか」と示唆された。

総じて、議員の方からは「地域企業や市民から直接意見を聞き、議会を通じて行政へ働きかけることで行政を動かすことが出来る。議員は市民の見方。議員を活用することを、市民の皆様にも理解して戴きたい。今後も様々な場面で意見交換を行ない、地域の酪農家皆さんの情熱・熱意に応えたい」と締めくくられた。



考えてみよう! TPPのこと

アクセスして
クイズに答えよう

考えてみよう TPP

検索

<http://www.think-tpp.jp>

